

のぞいてみよう！

となりの協調学習！（４）



平成27年7月30日
安芸太田町教育委員会（担当：萩原英子）

夏休みに入りました。とはいえ、まだまだ学校は忙しいことと思います。暑い中ですが、どうぞ体調管理には気を付けて、時間を作ってリフレッシュもしてくださいね。

さて、1学期間、町内のいろいろな学校で、知識構成型ジグソー法を用いた授業を行っていただきました。いくつかは授業を拝見したり、一緒に教材を考えたり…と教育委員会に居ながら、先生方との授業づくりから学ばせていただきました。夏休みに入り、「主体的な学び」と「協調学習」との関連を意識しながら、校内研修をされている学校もあり、私も一緒に参加させていただいております。

最近、「安芸太田町と言えば…？」と聞けば、「『協調学習』でしょ！」と言われるようになってきました。その一方で、



という声も聞きます。私たちも子どもたちと同じですね。取組が進んでくると、新たな疑問が生まれてくるのは当然のこと。がんばっている証拠！です。これをチャンスに、ぜひ学校内や町内の先生方と授業づくりについて、対話や論議をしていただければいいなと思っています。

これからしばらくの間、この通信で、これらの先生方のつぶやきにお答えすることにしてみたいと思います。まず1つ目は…

「協調学習」って難しい？！

こう言われたら、どう答えられますか？確かに、これまでの授業のスタイルと違うし、「学習科学」、「建設的相互作用」、「知識構成型ジグソー法」など難しそうな言葉が出てきます。ここで少し用語の整理をしてみましょう！

※詳しくは、CoREF「協調学習授業デザインハンドブック」p3～17

（学校配布済み、HPからも見ることができます。）をご覧ください。

まずは「学習科学」とは…？

学習者の視点から、人が生まれつき持っている学びの力とはどういうものかを考え直しながら、その学びの力を引き出す環境のあり方について考える研究分野のことです。

その中で、「人は他者と一緒に考えることで理解が進む」ということが分かっています。



へえっ…。そういう力を私たちはもともと持っているってことですか？だから「引き出す環境」に着目した訳ですね。

はい。この「他者と一緒に考えることで理解が進む」ことを建設的相互作用と呼びます。建設的相互作用は、

- ①自分の考えを外に出して確認する場面
- ②他の人の言葉や活動を聞いたり見たりしながら、自分の考えと組み合わせるよりよい考えを作る場面（モニタリング）

この2つの場面を何度も行き来することで、引き起こされていくそうですよ。



なるほど、「何度も…」ですか？つまり、アウトプットとインプットを繰り返すことによって、理解が進むということかな？

その通り！自分の考えを誰かにしゃべったり、人の考えを聞いたり、人のすることを見たりしながら、**だんだんわかってくる**って経験がありませんか？相手に分かってもらおうと、同じことだけど、相手の反応を見ながら言い換えたりするでしょ？そうしながら、あやふやだった自分の考えがはっきりしてきたり、「自分の中にある本当の気持ちや考え」に気づいたり…。

この「建設的相互作用」を通して、自分の考えを深めることを「協調学習」と呼びます。



えっ、じゃあ「協調学習」って、すでに私たちも経験しているってことですね。確かに、そういう姿は、これまでも教室の中で、見かけてきましたよ！

さすがですねえ。最初に説明したように、そういう学びの力を私たちはもともと持っているわけですから。授業の中で、「建設的相互作用」をより意図的に起こすために「知識構成型ジグソー法」という手法を用いているのです。大切なのは、教材や授業の型の中に込められた「協調的な学びを引き起こすしかけ」を授業者がつかんで、授業をしていくことだと思いますよ。



なるほど…。ということは、今、言われている「主体的な学び」につながるヒントが、知識構成型ジグソー法の授業づくりの中にもあるかも？！

さて、皆さんはどう思われますか？この続きは、次号へ…